

2012年3月期 第3四半期決算 電話説明会 説明概要

「2012年3月期 第3四半期決算 補足資料」をもとに説明いたしましたので併せてご覧ください。
お手元がない場合は、お手数ですが当社 IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。
<http://www.olc.co.jp/ir>

- ・実施日 2012年2月3日（金）
- ・説明者 執行役員（経理部担当） 高橋 渉

1. 四半期連結損益計算書（第3四半期累計実績／前年同期）

【連結業績】

2012年3月期第3四半期決算の実績について説明させていただきます。お手元の補足資料1ページ左側の上段、第3四半期累計での損益計算書をご覧ください。

当四半期は、前年同期と比較して、第1四半期に震災の影響を受けたことにより、売上高は、248億円減の2,697億円、営業利益は、15億円減の568億円、経常利益は、13億円減の565億円、四半期純利益は、61億円減の270億円となりました。

しかしながら、第2四半期以降、業績は大きく回復しております。

第3四半期、10月～12月のみの連結業績については、資料左側下段にある【参考①】をご覧ください。

左側のグラフのとおり、第3四半期の連結営業利益は364億円と第2四半期に続き過去最高となりました。

次に、右側のグラフをご覧ください。第3四半期の営業利益率は、29.9%と2期連続で大きく増加しております。

この大幅な増益の要因を下に2点記載しております。1点目は、連結売上高が前年同期比5.9%増の1,216億円と過去最高になったことです。テーマパーク入園者数・ゲスト1人当たり売上高ともに過去最高となっております。2点目は、テーマパーク固定費を前年同期レベルに抑制したことです。これにより、営業利益率が増加し大幅な増益となりました。

【セグメント別売上高】

第3四半期累計での売上高とその増減要因をご説明いたします。資料右側上段の【A. 売上高】をご覧ください。

連結売上高は、前年同期比 248 億円、8.4%減となりました。

セグメント別に見ますと、「(1) 売上高の状況」にありますとおり、①テーマパーク事業の売上高は、前年同期比 176 億円、7.3%減、②ホテル事業の売上高は、前年同期比 58 億円、16.1%減、③その他の事業の売上高は、13 億円、8.0%減と各事業ともに減収となりました。

これは、第1四半期に震災の影響を受けたことによるものです。右側のグラフ「四半期別 連結売上高 前年同期比の推移」をご覧ください。第1四半期は、前年同期比で 43.0%減でしたが、第2四半期は 5.4%増、第3四半期は 5.9%増と、第2四半期以降、大きく回復しております。

テーマパーク事業について補足させていただきます。1 つ下の表「(2) テーマパーク関連情報」をご覧ください。

入園者数は、第3四半期累計では、休園などにより前年同期を下回ったものの、第2四半期、第3四半期は、東京ディズニーシー10周年イベントや、ハロウィーンやクリスマスをテーマとしたイベントが奏功したことなどから過去最高となりました。

ゲスト1人当たり売上高は、第3四半期累計で前年同期を上回り、過去最高となりました。その内訳を説明いたしますと、チケット収入は、価格改定により前年同期を上回りました。商品販売収入は、東京ディズニーシー10周年関連商品が好調に推移したことにより前年同期を上回りました。飲食販売収入は、ワンハンドメニューの好調により、前年同期を若干上回りました。

【セグメント別営業利益】

セグメント別の営業利益とその増減要因について説明いたします。資料右側の中段【B. 営業利益】の表をご覧ください。

④テーマパーク事業

前年同期比 14 億円減の 487 億円となりました。これは、第1四半期の売上高が減少したことが要因です。一方、商品原価率や飲食原価率、そして、固定費が減少したことで減益幅を縮小しております。固定費の減 88 億円を科目別に説明しますと、人件費が 29 億円、固定経費が 50 億円、減価償却費が 9 億円減少しました。なお、特別損失へ休園期間の固定費を 27 億円振り替えております。

⑤ホテル事業

前年同期比 10 億円減の 72 億円となりました。第1四半期の売上高が減少した一方、固定費が 22 億円減少しました。なお、特別損失へ営業休止期間の固定費を 7 億円振り替えております。

⑥その他の事業

シアトリカル事業が増益となったことなどから、前年同期比9億円増の7億円と黒字化しました。

【四半期純利益】

四半期純利益の増減要因について説明いたします。資料右側の【C. 四半期純利益】をご覧ください。

「⑦特別損失99億円の内訳」について説明いたします。まず、シアトリカル事業において、「ZED」のショー製作費の減損損失19億円、劇場施設の減損損失43億円、合計で63億円計上しております。また、災害による損失として、休園期間の固定費を36億円計上しております。

この結果、四半期純利益は、前年同期比61億円、18.6%減となりました。

【総括】

総括をさせていただきます。資料右側下段の「総括」をご覧ください。

当四半期実績を前年同期と比較いたしますと、

第3四半期累計は、第1四半期に震災の影響を受けたことにより減収減益となりました。

しかしながら、第2四半期・第3四半期は過去最高の営業利益となりました。これは、テーマパーク事業において入園者数・ゲスト1人当たり売上高ともに過去最高になるなど売上高が増加したことに加え、引き続きコストコントロールを徹底したことなどにより、営業利益率が増加したことによります。

12月末をもって公演を終了した「ZED」の劇場施設については、現時点で将来の用途が定まっていないため、建物等の減損損失を第3四半期に計上いたしました。なお、劇場施設について、当面は多目的ホールとして有償で外部への貸し出しを行い、恒常的な活用方法については引き続き検討してまいります。

また、第3四半期単独での予想数値は開示していませんが、昨年11月に発表した業績予想と比較いたしますと、

テーマパーク事業は、入園者数やゲスト1人当たり売上高が予想を上回り増収増益となりました。ホテル事業とその他の事業も売上高の増加などにより、増収増益となりました。

2. 通期業績予想 連結損益計算書 (2012年2月発表修正予想/11月発表予想)

今回上方修正を行いました2012年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。お手元の補足資料2ページ左側、2番の損益計算書をご覧ください。

11月発表予想と比較すると、
売上高は、115億円増の3,547億円、
営業利益は、59億円増の617億円、
経常利益は、60億円増の610億円、
当期純利益は、1億円増の295億円を見込んでおります。

資料左側中段【参考②】をご覧ください。この予想を、経年での業績推移で説明いたします。

左側のグラフのとおり当期の営業利益率は17.4%と4期連続で増加する見込みです。

次に、右側のグラフをご覧ください。当期の営業利益は11月発表予想の558億円から上方修正し、617億円となる見込みです。これは、4期連続で過去最高となる見通しになります。

【セグメント別売上高】

セグメント別の売上高とその増減要因について説明いたします。資料右側上段「(1) 売上高の状況」をご覧ください。

①テーマパーク事業

入園者数の増加により、84億円増の2,933億円となる見込みです。

資料右側中段の「(2)テーマパーク関連情報」に記載のとおり、入園者数は、第3四半期の入園者数の増加により、50万人増の2,500万人を見込んでおります。また、ゲスト1人当たり売上高は、商品販売収入・飲食販売収入の好調を受け、80円増の10,280円を見込んでおります。

②ホテル事業

客室稼働率が増加したことなどから、18億円増の415億円となる見込みです。なお、各ホテルの客室稼働率・平均客室単価の予想につきましては、資料右側中段の「(3)ホテル関連情報」に記載しております。

③その他の事業

イクスピアリ事業・シアトリカル事業の増収などにより、12億円増の197億円となる見込みです。

【セグメント別営業利益】

セグメント別の営業利益とその増減要因について説明いたします。資料右側中段【B. 営業利益】の表をご覧ください。

④テーマパーク事業

人件費が約 20 億円増加するものの、売上高の増加に加え、商品原価率・飲食原価率が減少することなどから、39 億円増の 525 億円となる見込みです。なお、通期の固定経費は 11 月予想どおりとなる見込みです。

⑤ホテル事業

人件費が約 5 億円増加するものの、売上高の増加に伴い、6 億円増の 91 億円となる見込みです。

⑥その他の事業

シアトリカル事業が増益となったことなどにより、13 億円増の 0 億円の営業損失となる見込みです。

【当期純利益】

当期純利益の増減要因について説明いたします。資料右側の【C. 四半期純利益】をご覧ください。

「⑦特別損失 43 億円の増」は、先ほどご説明いたしましたシアトリカル事業の減損損失によるものです。

なお、お手元の補足資料 2 ページ左側下段には、【参考③】として、2 月発表の通期業績予想と前年実績を比較した「損益計算書」を記載しております。

【総括】

総括をさせていただきます。資料右側下段の「総括」をご覧ください。

2012 年 3 月期通期の業績予想について、第 3 四半期が 11 月予想を大幅に上回ったことから、11 月発表予想から上方修正いたします。

なお、第 4 四半期の営業利益は、11 月予想をほぼ据え置いております。

以上